

教団研究セミナー

僧侶の生涯教育と子弟教育

中野東禅

（駒沢大学講師
曹洞宗教化研究所講師兼主事）

「僧侶の生涯教育と子弟教育」について問題提起をするようにというご指示をいただきましたが、実際、子弟教育の問題は決定打になるようなものではありません。

一、教師と宗教団体の増減状況

基本的には、坊さんになる子弟が足りないということがまず土台にあります。『宗教年鑑』より宗教施設の増加と教師の増減について、昭和三十五年と昭和六十三年とを比較したのを見ますと、教師については（表―1）、天台系の場合、一万二八〇人から二万三三〇人と一万三〇〇人、一九七％にふえております。真言系は一九三％にふえております。浄土系が一三二％で割合ふえ方が少ない。禅系が一三三％で最も少ない。日蓮系は二六八％にふえております。団体（寺院・教会数）で見ると、天台系は八五一三が五一七三と三三四〇減り、六一％になっています。真言系は七九・七％、浄土系はやや減って九六％、禅系はほぼ横ばいで一〇一・七％、日蓮系は一・一五％となっています。

統計の本身はよくわかりませんが、日蓮系の場合、教師がたくさんふえて、寺院はそれほどふえていないというこ

表一 教師と宗教団体の増減状況（宗教年鑑）

	教 師				宗教団体			
	昭 39	昭 63	増減		昭 39	昭 63	増減	
			数	%			数	%
神 道 系								
神社神道系	22,051	27,383	5,332	124	79,591	80,167	576	100.7
教派神道系	148,270	56,893			30,634	6,643		
新教派系	7,066	7,121	55		4,204	1,154	3,050	
仏 教 系								
天台系	10,280	20,310	10,030	197	8,513	5,173	3,340	61
真言系	22,450	43,481	21,031	193	18,606	14,839	3,767	79.7
浄土系	43,843	57,986	14,143	132	31,556	30,380	1,176	96
禪 系	21,662	24,334	2,672	123	20,723	21,096	373	101.7
日蓮系	17,828	47,917	30,089	268	11,210	12,929	1,728	115
キリスト教系								
旧 教	7,758	9,483	1,725	122	1,796	2,082	286	116
新 教	6,122	9,003	2,881	147	4,253	5,383	1,130	126
諸 教	11,943	239,382	227,439	2,004	5,648	41,827	36,179	723

とは、新宗教の系統も入っているのではないかと
思われます。

天台宗の関東教区の勉強会に招かれたとき、
四割から五割の方が後継者が足りないと言って
おりました。二カ寺に一カ寺の割合です。ここ
ろが、この統計で見ると、寺は減っているわけ
です。八〇〇〇カ寺が五〇〇〇カ寺になり、教
師は逆に一万人が三万人になっています。にも
かわらず、後継者がいないというわけです。
そこで、中身は一体どうかを見る必要
があると思います。真言宗でもそうです。教師
はふえて寺院が減っている。ところが、後継者
は減っているというわけです。この辺のバラ
ンスの問題、中身を見る必要があると思いま
す。

一方、キリスト教系を見ますと、旧教も新教
も施設の増加と教師の増加がバランスしてい
るわけです。

こういうことを考えますと、各宗派ともご自
分の宗派内の教師を統計的に出してみる必要が

あるのではないかと思ひます。現在、寺院に所屬している人で教師資格を持っている者、あるいは准教師も含めて何歳の人がどのくらいいるかという人口構造のグラフをつくってみる必要があります。そうしないと、動きが目に見える形で把握できないのではないかという気がいたします。

当然、国の人口動態調査を連想しますが、ずっと以前は「ピラミッド型」と言われておりました。ところが、三十年ぐらい前から「茶筒型」になって、六十歳、七十歳になってもあまり人口が減らない。それがここ十年ぐらい前からは「キノコ型」と言われております。ことし成人になった人が一八〇万人であります。死ぬ人は年間八〇万人、生まれてくるのが二〇〇万人ぐらいです。これでわかりますように、上がふくらんで下が細いわけです。

我が国は経済成長の中で、給料もいいし、仕事があるし、人を求めているわけです。こうなれば、お坊さんだって一個の人間ですから、お坊さんになる前にまず人間として何をやりたいかということになれば、当然、高きより低きに流れていくことがあつたとしても、これは止めようがない。こういうことが根底にあるわけです。ですから、人口構造の側から見る必要があります。

二、後継者の有無の変動

次に、後継者の有無の変動を見ますと（表一）、「後継者なし」が、日蓮宗さんの昭和五十五年の宗勢調査では、二七・九%、曹洞宗の同六十年の調査では二九・三%、妙心寺派三五%となつております。当時、妙心寺派は無住寺院が非常にありましたから一概に言えませんが、比較するのは間違ひですが、これだけで見れば、時代が下るに従つて後継者なしがどんどんふえているとも言えるわけです。何となくそうではないかと思へます。曹洞宗の場合、昭和四十年と六十年とを比べて「後継者あり」が七六・七%から六八・八%ということでは八%減つております。「後継者なし」の理由について、中身をもっと見る必要があります。

表一 二 後継者の有無の変動

	曹洞宗(昭 40)	日蓮宗(昭 55)	曹洞宗(昭 60)	臨・妙心派(昭 60)						
後継者あり	76.7	64	68.8	62						
なし		27.9	29.3	35						
地域差 (日蓮宗)										
いる	九州	東京	北海道	北関東	いない	中部	山梨	中四国	千葉	北陸
	70.1	70.0	69.2	68.4		32.3	32.6	34.4	34.5	36.2

後継者がいないことについて、地域差があることが一番よくわかるのが日蓮宗さんの場合です。「後継者あり」を高い順に見ると、九州、東京、北海道、北関東となっています。ただし、九州が何カ寺であるか、九州のどの地域に多いのかはわかりませんが、数字だけを並べるとそういうことになります。九州というのが北九州であるとすれば、九州、東京、北海道、北関東に後継者がいるということは、経済的に潤っている地域ではないかと思われまます。

「後継者なし」は、中部、山梨、中四国、千葉、北陸と順を追ってその度合が高くなっていきます。ということは、経済的に貧しい寺院の多いところではないかという気がいたします。

これは曹洞宗の場合も同じです。昭和六十年の総合調査によれば、年収の少ないところは「後継者なし」が圧倒的に多いわけです。つまり、「後継者ある・なし」は、寺院の経済基盤とかなり関係があるということが、推測できるわけです。

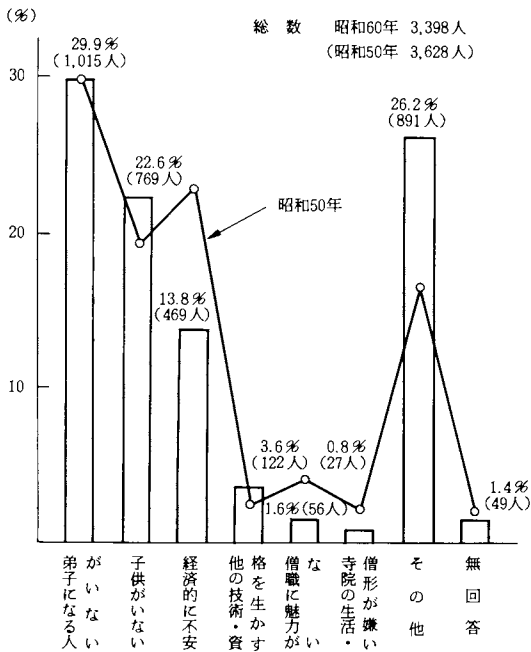
三、後継者のいない理由

後継者のいない理由ですが、日蓮宗と曹洞宗の統計項目が違いますので、書き直してみたのが表一3です。これはもったときめ細かに研究しないと、後継者がいないという実状の把握ができません。例えば、四十歳の方が後継者がいないということ、三十歳の場合とでは、三十歳の場合には、まだ子供が生まれていないからという意味がありますし、娘さんがいる場合には事情が変わります。そういうことで、後継

表一 後継者のいない理由

	日蓮宗	曹洞宗
弟子になる人がいない	20.8	29.9
娘婿がいない	10.4	
子供に意志がない	18.0	
経済的に不安		13.8
他の資格を生かす		3.6
僧職に魅力がない		1.6
寺院の生活がきらい		0.8
子供がいない	17.6	22.6

図一 後継者のない理由（曹洞宗 60年）

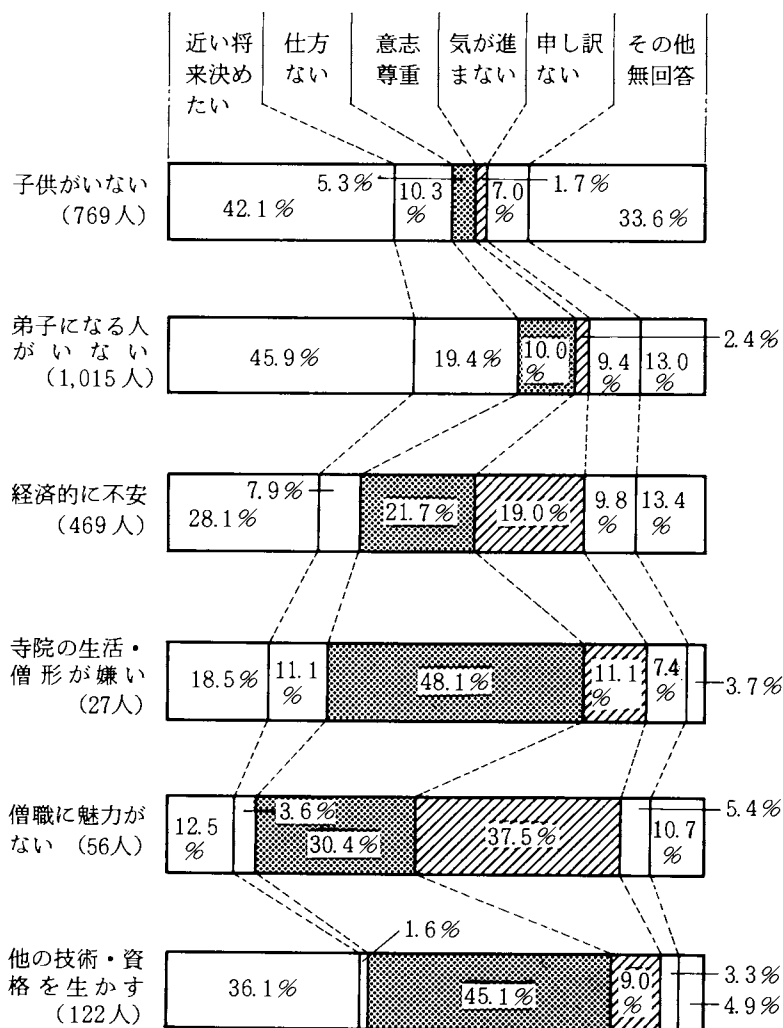


者がいないということを調べるのは、かなり難しいと思います。

図一は曹洞宗の場合ですが、白い棒グラフが昭和六十年で、折れ線グラフが昭和五十年の調査です。「経済的に不安」は昭和五十年から六十年ではぐんと減っております。全国的に寺院が経済的に潤ってきているということが言えると思います。ところが、「その他」がふえております。そのほか「子供がいない」が3%ぐらいふえております。

図二は、左側に後継者のいない理由、上側に、それを住職自身がどう認識しているかの項目を掲げて、そのパーセンテージを示したものです。「意志尊重」という項目は、子供の意志を尊重するということです。「経済的に不安」「寺院の生活・僧形が嫌い」「僧職に魅力がない」「他の技術・資格を生かす」という項目では「意

図—2 後継者のない理由と現状認識（曹洞宗 60年）



(注) その他の理由 891人，無回答 49人のグラフは省く。

志尊重」のパーセンテージが高いわけです。ということは、子供の意志を尊重するということが先なのか、経済的に不安が先なのか、これではわかりません。また、技術・資格を生かすと言っているが、それが経済的に不安だからという意味もあるかもしれない。大寺院の子供で、「おれは坊さんよりも医者になりたい」とか「小説家になりたい」と言う人がいますが、それは非常に少ないわけです。一般論としては、経済的な不安ということが関係しているという気がいたします。

図―2の上側の項目の「気が進まない」というのは、よくわかりません。住職自身の現状認識ではなく、子供の気が進まないからという意味でしょうか。それが「僧職に魅力がない」「経済的に不安」というところで多くなっています。そうすると、「僧職に魅力がない」ということが、「経済的に不安」と関係しているのか、そうではなくて、寺院活動そのものが停滞しているから「魅力がない」のか。やはり総合的に連動していると思います。

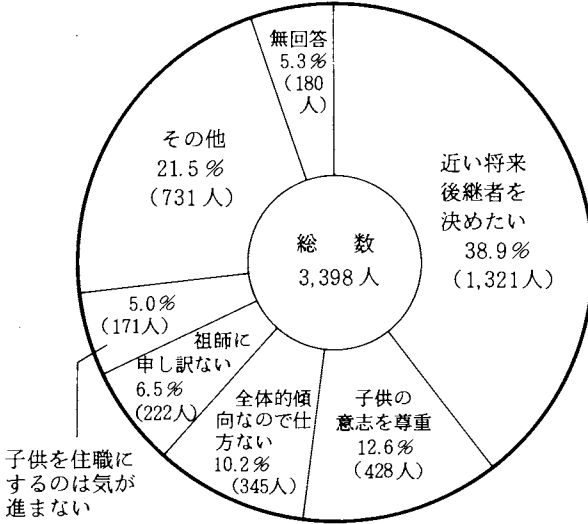
図―3は、後継者のいない住職の現状認識を、わかりやすく円グラフにまとめたものです。

図―4は臨済宗妙心寺派の「世襲についてどう思うか」という調査です。これを見ると、「世襲でよいと思う」が二七%、「よいとは思わないが、現状としてやむをえない」が五一%となっています。

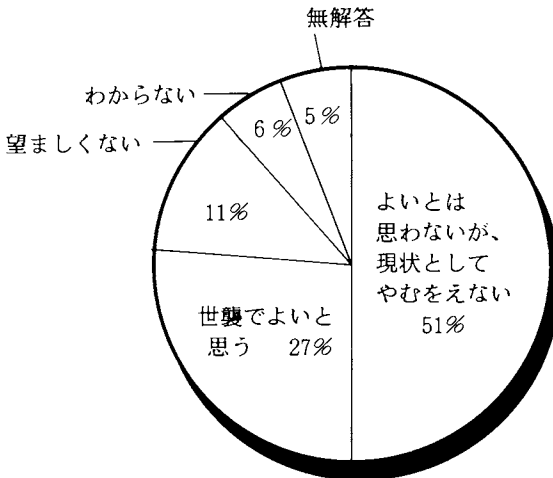
そういう意味では、臨済宗は今でも外見上は世襲をしないような形態を保とうとしている最右翼だと思います。男の子供は学校の先生にして、他人を弟子にしている人もいます。そういう意味では臨済宗は世襲に対して一番抵抗している宗派だと思いますが、それでも図―4のような状況です。まして浄土系になると、こんな強い結果は出てこないと思います。

明治から結婚するようになった真宗以外の場合、私の生まれたお寺では、結婚してから四代目です。弟子入りした東京のお寺も同じ四代目です。そうすると、今、大学生あたりは五代目、生まれてくる赤ちゃんクラスは、早いところでは六代目です。ですから、世襲と仏教の古いパターンとの葛藤がかなりなくなってきている、それが徒弟養成上

図一 3 後継者のない住職の現状認識（曹洞宗 60年）



図一 4 世襲についてどう思うか（臨済宗妙心寺派）



表一四 住職と後継者のつづき柄

	日 蓮 宗			浄土宗 52年 (宗務調査)	臨濟宗	曹洞宗 40年			曹洞宗 60年		
	住職	非住職	住職との つづき柄	住職と後継者 のつづき柄	徒弟	後継者	徒弟	副住職	後継者	徒弟	
本 宗 寺 院	54.7	64.8									
実子(徒 弟)			23.8	86.3	86.3	81.6	64.8	78.9	75.4	72.5	
実子(他寺院)			8.0								
本 宗 在 家	28.7	19.9									
他 宗 在 家	13.6	11.4									
養 子			7.1	9.7	9.7	11.1	8.8	4.5	7.1	12.8	
養子・他寺院			5.9								
徒弟 (戸籍関 係なし)			8.5	3.0	3.0	7.1	26.4				
法 類			17.8								
縁者(親 族)			7.0	1.0	1.0						
他 宗 寺 院	1.1	1.2									

の大きな課題になってくるのだろうと思います。

四、住職と後継者の続柄

表一四「住職と後継者の続柄」を見ますと、大体の傾向として実子中心型になってきている。それを補う形で養子という形。徒弟は、戸籍関係のない徒弟、養子にして戸籍関係をつくるパターン、婿のパターンといろいろあります。

そこで、そのパターンをもっときちっと押さえる必要があると思います。そうすると、どこを補充すべきかということも出てくるわけです。

五、現代における教団の

問題点

そのようなことを踏まえて、現代における教団の問題点、特に伝統教団の場合を見ますと、次の諸点が挙げられます。

- (1) 人材の停滞(肉系相続による硬直化)

新しく人材が入ってこない、入ってこれない、あるいは人材が寺院の間を動いて行けなくなっているという、さまざまな意味があります。

(2) 資本の停滞と寺院の資本主義化

これも徒弟養成上で大きな問題になると思います。寺院資本が動かない。生きてこない。それがお寺さんの生活が小市民的になっていき、活性化を失っていく。それでいて寺院の行動原理は、資本主義化という形で活力を失っていくように思います。

(3) 施設の停滞

特に過疎化問題と関ってまいります。国土庁が昨年まとめた『過疎対策の現況』という白書に、過疎地帯と過密地帯との人口の違いが出ております。九州、東海ベルト地帯、札幌、仙台等の過密地帯と過疎地の寺院の配分を比較してみると、過密地帯では寺院が全然ふえていない。新寺建立はわずかでありまして、キリスト教も地価が上がってお手上げの状態です。土地問題が最大のガンであります。施設が停滞してしまっているから、人間が動かない。このために人材が活性化しないのだと思います。そういう意味で、人材の問題を教団全体の活性化との関係で見ないとだめだと思います。

それから、お金が動く寺院は人が集まりやすい。お金が動かない寺院は人が動きにくい。日蓮宗さんの場合で言えば、どちらかというと祈禱寺院は弟子がいるのではないかと思えます。祈禱をやって人が集まり、お金の集まるころは割合にお弟子が得意やすいのではないか。必ずしも実子にこだわらないでも、人が集まりますから、弟子になるという者もいるのではないか。ところが、葬祭だけやっている寺院では、どうしても実子が中心になり、娘に婿がないということが起こります。

そういう意味で、人材の問題は、人間と資本と施設の動きをどう与えるかというバックアップがなかったら、人材

養成だけを幾ら考えても、どうしようもないのではないか。そういうものと連動していないと、十年後、二十年後に対処していけないと思います。

(4) 宗学（神学）の希薄化（肉系相統によるあと追い発心）

あと追い発心ですから、バイタリティーが出てこない。

(5) 信仰的紐帯の希薄化（都市化による信仰活動の停滞の影響）

寺院を中心にした信仰のコミュニティがほとんど解体しているわけです。浄土真宗でさえも東京、大阪といった大都市では聞法会に人が集まりません。おばあさんが五人集まったとか、そんな状態ですから、大都市においては浄土真宗の信者だってほとんど聞法していません。経済成長で、お寺へ行っていられませんか。そういうふうな信仰の紐帯がなくなってきたことが、徒弟が活性化していかない理由だと思っています。

最近の子弟を見ていると、以前は教化をやりたいと言って来る人たちは、寺で方丈さんが子供会をやっているとか、ボーイスカウトをやっているとか、説教師であるとかという形を既に見て知っているわけです。「自行化他」と言いますが、根からの寺の息子でそういうものをちゃんと見ている人は、自行がまだ完全に完結してなくても、他人のためにやらなければならないということは体で知っているわけです。

ところが、発心した者は、寺のそういうものを知らないわけです。寺の現場を知らない。知らないのに葬式をやる。そうすると、すごいアレルギーを起こすか、ないしは割り切ってアルバイトと考えるかのどちらかです。それでいて檀信徒とのコミュニティがありませんから、布教といったって、それは観念の中です。そういうことが、今、起こっているわけです。ですから、徒弟の問題は、寺院が生きて働いているかどうかということと非常に連動しているわけです。

最近、寺に育った者でも、大学の授業でしか仏教を知らない。第一、お説教というものを聞いたことがない、

ボーイスカウトもやってない、そういう者が布教教化を目指して来ます。駒沢大学は、今、児童教育部が壊滅状態ですから、児童教育部でそういうクラブ活動もやってない。クラブ活動で何をやっているかというところ、自動車だとか、旅だとか、パソコンについてどうとか、そういう技術はありますが、人間を対象とした経験がほとんどないというのが、最近の人たちです。かなり大きな寺院の子供もそうです。中学校から受験戦争で、お寺とはあまり関係なく育ってきています。

そういう意味で、寺院が信仰の紐帯の場を持っているかどうかということと関係があります。

(6) 求道欲求の希薄化（豊さによる問題意識の欠落）

これははっきりしています。非常に割り切っています。少なくとも我々の世代はお布施をもらうことに対して、いろいろ問題意識があったけれども、我々から十年後輩、つまり戦後生まれの人たちになると、途端に、「報酬だからいいではないか」ということで、お布施をもらうことに対する何らかの内心の葛藤が感じられなくなりました。今、四十歳ぐらいの人からそういうことがだんだんはつきりしてきました。まして二十歳代の人になると、「研究費が足りない」と文句を言いながら、五十万円でコンピューターを買ったとか、大きなテレビを買ったとか言っている。貧しさの基準が違うのです。

それから、本を読んでいません。社会的な問題意識にかかわるような論文、雑誌を読んでいる人は非常に少ない。

(7) 救いがあいまいなままの宗教（宗教的消費者）

伝統教団は救いがあいまいなままの宗教です。救われなくても檀信徒ですから。ですから、お説教は救いに関係のないことをやっていたらいい。要するに、お布施を持ってくればいいわけです。ストリートに救いに関係するようなお説教は必要なくて教団が成り立っている。山折哲雄先生は「宗教的消費者」と言いましたが、檀信徒そのものが宗教的消費者ですから、お坊さんのほうだって、そうなります。そうなれば、そこへ来る徒弟も問題意識を持ちようが

ない。

(8) 民俗宗教化・現実主義化

(9) 教団の同業組合化

我々の教団は同業組合としての規制を持っているわけです。信仰についての規制は非常に緩やかというか、無いに等しい状況です。

以上の問題が、徒弟養成の問題の背景として連動していることを我々はまず認識し、腹を決めてかからなければいけないのではないかと思います。

六、寺院内の生活態度

さて、徒弟を支えている寺院の生活態度を見ますと、①伝統維持型、②伝統退化型、③伝統再生型、④合理化型、⑤世俗迎合型に分けられると思います。

伝統退化型と合理化型とはちょっと違いがあります。

①伝統維持型というのは、伝統にこだわっている。こだわる理由がその寺にあるわけです。例えば、役僧を何人か置いていたり、地域の祭が多いとか、必要性のあるお寺では伝統を維持しているわけです。

②伝統退化型というのは、そういうものを持っているけれども、あまり再生産していかない。

③伝統再生型は、和尚さんが早く死んで、奥さんが女手一つで子供を育てる。そうなりますと寺院内の伝統宗教文化はいったん切れます。それを息子さんが道場へ行き、帰ってきて新たにまたつくるといふものです。

これは私も通信教育をやっている、奥さんたちを見てみると、よくわかります。私の担当は儀式関係ですが、レポートを見ても、「研修会に行つて、食事五観の偈を読んで食事をした」と書いてある。在家から嫁に来た人は、感

動するわけです。「前からそういうことがあるということは聞いていたが、私の寺では、これをやっていない。非常によかった。子供たちもちょうどそういう時期だから」というので、帰って方丈さんに頼んで書いてもらって始めたとか、「とてもいいと思うから、いつか始めたい」と言う人もいる。すぐ始めた奥さんと、いつか始めたいという奥さんとは全然違うわけです。それは方丈さんが関係しているのです。

そういう意味で、方丈さんの人柄、奥さんの人柄によって、寺院内の伝統は非常に揺れ動いているわけです。これを我々は徒弟養成の上で認識していかなければいけないと思います。

徒弟養成のシンポジウムを駒沢大学で開いたときに、四国の檜崎一光という曹洞宗の堂頭にパネラーとして来てもらいましたが、「寺をやっていくのは、その人の人柄次第だ。教える側に全面的な責任はない。教えるという責任しかないのです、それ以上は一人ひとりの問題だ。例えば、僧堂に三年間もいて、帰ったらもとの木阿弥、朝のお経も読まない和尚がいる。ところが、三カ月しかいなくて、帰ったらきちんとやっている人がいる。これは人柄の問題だ」と言っておりました。

そういう意味で、寺院内の宗教的伝統維持、あるいは再生産していくということは、徒弟にどういう影響を及ぼすか。そういうことをもつと言わないとだめだと思えます。

④合理化型というのは、生活でも何でもみんな機械化、合理化していくお寺さんです。言ってみれば、これは世俗迎合型になるわけですが、合理化型はむしろ檀信徒がたくさん集まるようにお寺を合理化していくわけです。ですから、知らない間に非宗教的になっていくけれども、とにかく檀信徒を集めて、金や寄附を集めることをよくやる。同じ盛んになっていっても、ちょっと異質なのです。

⑤世俗迎合型は、人のために苦勞するのは嫌だというタイプです。

こういう寺院内の和尚さんを中心とした生活態度を一度研究する必要があると思えます。

七、寺院内の世俗化

次に、寺院内の世俗化はどういうふうに進んでいるか。これは曹洞宗の私どもの研究室でやった共同研究の結果ですが、

(1) 生活の家庭化

小市民の家庭になっていった。プライベートルームを確保するという形です。

(2) 宗教活動の経済中心化

お金のためには活動する。これははっきりしています。お坊さんがどういふふうにお金を使うかということは、資本を回収できるところの葬祭、檀信徒のためにはお金を使います。資本を回収できないものにはお金を使いません。どんなにいい教材があっても、それが檀信徒へ行ってお布施となつて返つてこないような教材は使つてくれない。つまり、資本の原理で寺院の経済を動かしているわけです。

ですから、例えばお庭を一生懸命にきれいにすると檀信徒が喜ぶ、和尚さんもそれでプライドを維持できる。そういうわけで、檀信徒に教えを伝える価値よりも、お布施として回収できることに力を入れるということです。

(3) 分業化

これは徒弟問題に大きく関係してきます。寺院の世帯人数は大体三・一人です。曹洞宗の場合、昭和五十年ごろ三・一人になっています。世間一般の世帯では三人を割ったかどうかというところでしょう。お寺でも子供一人しか産まない。田舎の過疎地のお寺へ行ったら老夫婦二人という形が多いわけです。その中で寺院を維持しながらいくわけです。和尚さんは学校の先生をしながらお寺を維持している。子供は学校のクラブ活動中心だということになると、朝の仕事をしても分業化していくわけです。子供は受験勉強で塾へ行つて夜遅く帰ってきているから、朝は一切やら

ないで、ご飯を食べたら飛び出していく。方丈さんは学校があるから、お線香一本をあげて、簡単なお題目をあげて、これで朝のお勤めを終える。奥さんは玄関や境内を掃くということで、寺院内の仕事はみんな分業化しているわけです。そうすると子供に仕事をさせない傾向が強まって、当然子供に寺院内のいろいろな文化が伝わらない。

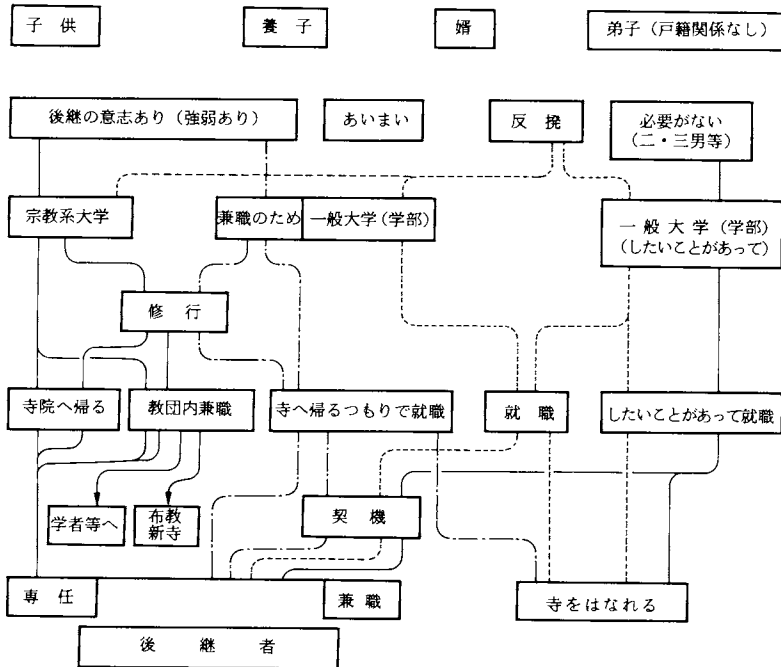
八、後継者になっていくパターン

いくパターン

次は「後継者になっていくパターン」です。これも押さえておく必要があります。一応、こうではないかと思うのを図にしてみました(図15)。

後継者の意志があって、宗門系大学へ行く人と、宗門系大学を落ちたから行かない人、就職のために一般大学へ行く人とあるわけで

図一五 後継者になっていくパターン



す。一般大学へ行った人でも、兼職をしようということで、修行に行き就職するか、修行に行って戻るとか、寺院に対する反発ゆえに一般大学へ行ったりとか、さまざまなパターンがあると思います。

こういうパターンを見ていった場合に、寺院をいったん離れた人たちが寺に戻ってくるのを、ある程度積極的、意識的にやってもいいわけです。

例えば、跡継ぎを予定していたが死んだとか、出ていってしまった。娘は在家へ嫁にやったが、婿さんが、「跡継ぎがないのだったら、僕が坊さんになる」と、こういう即席の坊さんが結構います。

私が知っているのでも、アナウンサーであった婿さんが跡継ぎになったり、絵描きであった婿さんが即席で坊さんになって跡継ぎになったりとか、結構います。そういうパターンの場合にも対応策、あるいはそれを積極的に進めるとかということも考えて、いろいろなパターンを整理していく必要がある。そうすると、頭はずいぶんわからなくなると思います。

表―5は、「僧侶になったいきさつ」です。一応、参考にしてください。

九、寺院子弟の精神形成

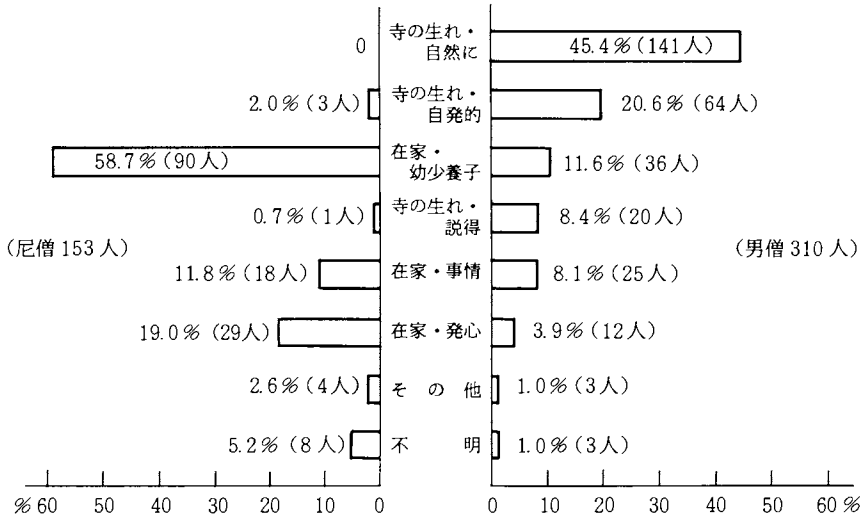
次は、「寺院子弟の精神形成」です。

表―6は、お坊さんたちに意識調査をしたもので、『教化研修』二十一号に載っておりますが、「あなたが僧侶として決定的に自覚を持ったきっかけは何か」ということを聞いて、それを地域別にまとめたものです。

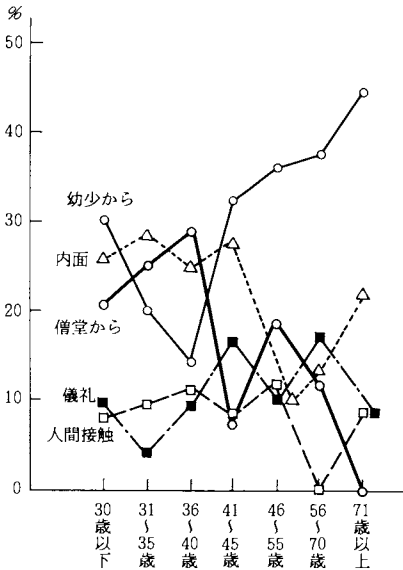
「小さいときから何となく」と答えたのが○印と実線で、「立派な僧に出会って自覚した」というのが△印と点線で、「得度式で自覚した」というのが□印と――という線で示してあります。

地域別に見た場合、地域と自覚には関係があるようです。つまり、人と出会って感動し自覚したというのは町村が

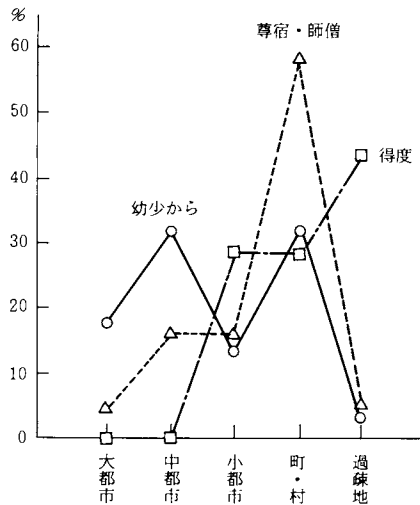
表一五 僧侶になったいきさつ（性別）



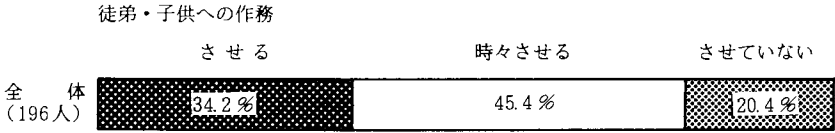
表一七 僧侶としての決定的自覚（年代別）



表一六 僧侶としての決定的自覚（地域別）



図—6 寺院内に於ける子弟教育の開始



多い。町村には今でもなかなか立派な和尚がいます。そういうことが影響しているのではないかと思います。

それから、得度式で感動をしたのは、僻地に多い。山村の過疎地では人がいないから、人がいないところで育った人は、人に対して鈍感です。私は山奥で育ったから、これはよくわかります。人に感動しないで式典に感動して、僧侶としての自覚を持つ。ところが都会地へ来ると、「幼少から」というのが多い。

表—7は、それを年代別に見たものです。

十、寺院内における子弟教育の開始

次に、「寺院内における子弟教育の開始」であります。

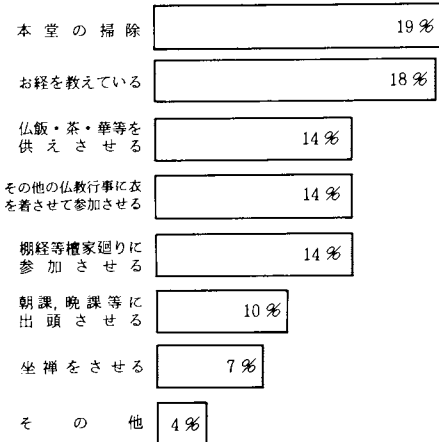
図—6は曹洞宗の場合です。調査対象は一九六人ですから、あまり当てになりませんが、徒弟・子供に作務、つまりお掃除などをさせているかという問いに、「させている」が三四%、「させていない」は二〇%います。もちろん、子供が受験期であるというのがあるかもしれません。

図—7は、「子供に対する離僧教育」に関する臨濟宗妙心寺派の調査です。

これで見ると、「本堂の掃除」「お経を教えている」というのが多くて、それに次いで「仏飯・茶・華等を供えさせる」「その他に仏教行事に衣を着させて参加させる」「楞経等檀家廻りに参加させる」というのがそれぞれ一四%となっております。

『仏教文化研究』（昭和五十二年）に出ておりました浄土宗の土屋光道先生の大正大学にお

図一七 子供に対する難僧教育
(臨濟宗妙心寺派)



表一八 作務の種類

勤行	95	45.9%
法事	83	40.0
十夜	99	47.8
棚経	116	56.0
月まいり	45	21.7
掃除	88	42.5

(重複回答)

表一九 初めて習った年齢

	浄土	天台	真言	計
7歳未満	11	0	3	14
7～12歳	57	3	19	79
13～15歳	17	2	15	34
16～18歳	35	5	35	75
19～22歳	38	1	14	53
23歳以上	22	0	2	24
N A	21	2	9	32
計	201	13	97	311

る「宗門子弟養成に対する意識調査及びその現況」によりますと、作務の種類では棚経が五六%と、お盆の手伝いが一番多いようです(表一八)。

初めて習った年齢が宗門別に出ております(表一九)、浄土宗では七歳未満というのが十一人と、早くから行っているということがわかります。各宗とも七歳から十二歳までが一番多い。つまり小学生のときです。これは時間的な点、また素直でもあるということでしょう。十六、二十歳からという人も結構あります。

図一八から図一十一は曹洞宗の場合です。

まず図一八の「子供の得度時期」を見ると、小学校低学年が二五%、高学年が三三%、合わせて六〇%近くになります。

図一九の「朝課随喜の範囲」ですが、子供たち全員にやらせるのが二八%、男子のみが二五%、後継予定者のみが三六%となっていて

図-10 徒弟・子供の朝課随喜時期

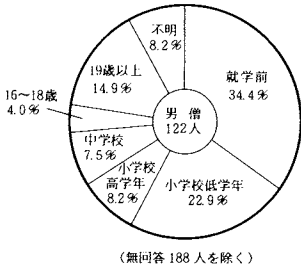


図-9 朝課随喜の範囲

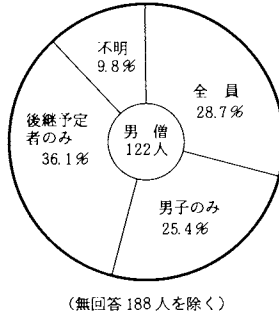
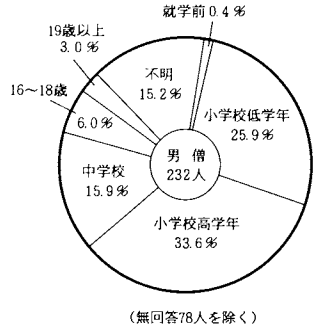


図-8 子供の得度時期



ます。次男が幼稚園でまだ朝勤をさせてないという場合には、「全員」という答えは出ませんから、これは子供の年齢にもよって違ってきます。

図-10は「徒弟・子供の朝課随喜時期」ですが、就学前が三四%、小学校低学年が二二%で、これだけで大体六割近くを占めています。

図-11の「子供の得度とその範囲」を見ますと、後継予定者のみが二九%、子供全員が四七%、なりゆきが一五%、得度させないが三・三%となっています。

表-10(42頁参照)は「得度の年齢」ですが、これは先ほどの大正大学生を対象の調査です。十六歳から十八歳が一番多いようです。中学生、大学生、小学生の順になっているようです。

同じ調査で「最初の指導の年齢」(表-11・42頁参照)では、浄土宗の場合、小学校のときが一番多いわけです。

表-12(43頁参照)は同じく浄土宗の場合ですが、日常勤行の指導をだれが行っているかという、これもおもしろい調査です。

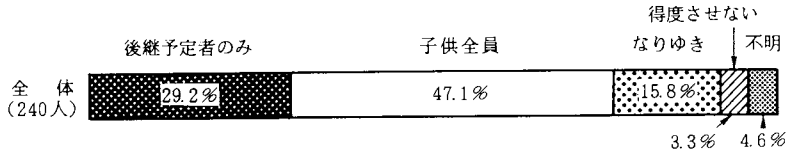
住職が自分で指導しているとか、随身にさせているとか、夏季の勉強会で指導しているとか、いろいろあります。

表-13(43頁参照)は、だれに教わっているかを宗派別で見たものです。

十一、子弟に何を教えるか

曹洞宗で昭和四十七年に、徒弟(小・中学生、高校生以上)、現職(副住職

図一 11 子供の得度とその範囲



以上)、寺族、檀信徒と分けて、何を学ばせるべきかを調査し、その必要度を五点法で示したことがあります。こういう視点も、徒弟養成を考えていく場合に必要ではないかと思えます(表14、16・44、46頁参照)。

これを寺院に提供するということが大事だと思います。特に母親に提供するのが一番いい方法だと思います。奥さんのほうが大体熱心な人が多いわけです。住職は七面倒臭いし、忙しいし、あまり考えていない。

子供が幼稚園へ行くようになったら、どんなものを教えるべきか。これを見て、「あ、うちはこんなこと教えてない」とか、「これも教えないといけない」とか、すごくやる気を持ってくる奥さんと、やる気を失う奥さん、あるいはご住職に失望する奥さんとか、いろいろ出てまいります。こういうものをつくって提供することが一番いい刺激剤となります。やり方は大体知っているわけですから、それよりも先に、教えるべきものは何があるかということをお念に書き出したわけです。

次は、「生活清規の口伝アンケート」です。「清規」というのは禅宗で使う言葉です。宗門のいろいろな方に、あなたはお師匠さんから何を教わったかというアンケートを出して、それを教える年齢別に分類・整理したものです。こういったものをもっと整備して、寺院の奥さんたちに配布すればいいと思います。

例えば、『僧風林読本』の最初の十頁か二十頁に、こういったものをイラスト入りで、「生活に関して」とか「子供に関して」というように整理して掲載すれば、奥さんたちはハッスルするでしょうし、和尚さんだって楽だと思います。

表—11 勤行教育 (浄土)

最初の 指導年齢	7歳未満	28	13.5%
	7～13歳	66	31.9
	13～15歳	7	3.4
	15～18歳	16	7.7
	18歳以上	24	11.6

表—10 得度年齢

	浄土	天台	真言	計
7歳未満	5	0	0	5
7～12歳	20	1	19	40
13～15歳	22	8	17	47
16～18歳	27	1	33	61
19～22歳	35	2	9	46
23歳以上	22	0	1	23

十一、まとめ

さて、まとめとして申し上げたいと思います。

きょうのこの企画は、生涯教育ということでございます。曹洞宗の場合を申し上げますと、八十ぐらいの宗務所に分かれております。その宗務所内で年一回、「徒弟講習」があります。

それから、「現職講習」ですが、これは四十歳までの教師資格者に対して毎年一回以上行うわけです。これには罰則規定はありません。二等教師になった後は、その人の努力によって、褒賞的に一等教師になります。そのときに、現職教育の修了証が評価されます。

さらに、これを補う形で、「布教講習」がございまして、各宗務所が年一回以上行います。

そのほか、「緑陰禅の集い」というのがあります。大人向は一〇〇会場、子供向けのものは二〇〇会場、それぞれ夏に三日間とか四日間行われます。

それから、「特殊安居」というのがあります。高卒、大卒者を対象に、春、夏休みに一カ月ぐらい、三十三の僧堂で開催します。

そのほか家族講習もございまして。

また、「寺院婦人通信教育」というのがあります。三科目について三回、つまり九回レポートを提出し、スクリーニングに当たる講習会を二泊三日で行います。

表-13

	浄土(%)	天台(%)	真言(%)	計
イ 師 僧	103 (51.2)	5 (38.5)	53 (54.6)	161
ロ 随 身	30 (14.9)	3 (23.0)	8 (8.2)	41
ハ 夏季僧堂	10 (5.0)	1 (7.6)	13 (13.4)	24
ニ 組 講習会	13 (6.5)	1 (7.6)	3 (3.0)	17
ホ 大学実践仏教	107 (53.2)	9 (69.2)	64 (66.0)	180
ヘ 本山講習会	38 (18.9)	2 (15.4)	5 (5.1)	45
ト そ の 他	23 (11.4)	4 (30.7)	8 (8.2)	35

表-12 日常修行の指導

	人数	割合
自分で指導	115	55.6%
随 身	13	6.3
夏季僧堂	7	3.4
組寺・講習会	20	9.7
大学・実践仏教	57	27.5
本山・講習会	35	16.9
そ の 他	30	14.5
機 会 な し	7	3.4

これが終わって寺族得度をすると、準教師の資格を申請することができます。準教師になると干与者になれます。このように十年前からいたしました。

このようなことが、徒弟養成のバックとしてあります。ですから、曹洞宗はキメが荒いわけです。日蓮宗の沙弥校に当たるものは、二泊三日の徒弟講習ぐらいです。かつて東京宗務所が徒弟講習会をやりたい、徒弟に宗教的な自覚や感動を与えるなら、もっと楽しく、おもしろくするほうがいいのではないかと、対象は中学生、高校生、あるいは小学校の高学年も入っていいだろうと思って企画しました。仏教文化を中心に行いたいということで行いましたら、高校生、中学生はだれもない。参加者は三十歳、四十歳のおじさんばかりです。

「なぜか」と聞いたら、「東京都内の曹洞宗の寺院の徒弟は世田谷高校か駒沢高校へ行くから、こんな二泊三日の講習会はアホらしくて、これない」というわけです。では、ここへ来ているおじさんたちはどういう人たちなんだろうと、十人ぐらいに聞きましたら、「実は、ある寺の次男坊です。今、テレビ局に勤めているんですが、最近ちょっと思い当たることがあって……」というわけです。ですから、徒弟講習というのは、地域によって様相が全く違ってきます。地方へ行けば非常に盛んなどころがあります。東京では、徒弟というのはおじさんばかりです。

先ほど来申し上げたこと全体を洗いながら、こちらの思い込みで一律にやらないほうがいいのではないかと。そして、もっといろいろなところと連動させながらやる。しかも核になるものをどうするかということ。

表—14 寺院子弟の精神形成

「教化研究所報」昭56.2

共同研究「徒弟のためのテキスト作り」中間報告

調査結果の特性	年代			
	F子20才	E男30才	A男26才	
▼家庭中心の生活圏であり、家族の絆や情懷の与え方が重要である。 ▼即物的知識を求め、▼まねによる行動が多い▼読経を経験する▼僧形に対する反感▼布施とか僧侶ということとうしろめたさをもつ▼親中心の情懷と娘の教育が必要▼寺院中心の生活文化とそれに関する知識を学習させることが必要	▼父より仏教絵本を与えられ他の本より印象深い ▼寺の子、よそ者という意識があった ▼日曜日はお経の練習	▼父は兼職 ▼祖母と母との不仲 ▼母が私生児だと知る	▼四才で法要参加・五才で弁事。以後十五回弁事で木生譚・仏教映画を案しく読む ▼得度・大般若会随喜▼先住の死を深く悲しむ▼日曜参拝会に三年出席▼「走れメロス」に感動	
	▼仏教や宗門の歴史の意味を理解しはじめる▼自己の理想像を模索▼悩みが儀式や行によって解消される場合が多く論理的解決はそのまま▼現実への疑問をもちながら、かつ自分もそこに存在していることの自覚▼行持・叢林・師家などと出会うことによって宗教のめざすものを知る	▼弟の得度▼剃髪を披う弟をみて父とげんかした。	▼兄の思想（共産党）の影響を強くうける▼塔婆の書法で恥をかく▼得度	▼群儀や他寺院に随喜▼生き物に愛着を感じる▼12才から五年間土曜坐禅会と接心会に皆出席 ▼立身、特安三回▼剃髪に抵抗を感じる▼クラブ活動中心の生活▼疑問なく僧侶になった
	▼自己存在の社会的意味を考えていく▼仏教と社会とか、寺院と本来の宗教とかの関係やその社会的意味を考えるようになる。	▼寺族得度▼曇水に対して幻滅▼帰省の度に本堂参拝	▼キリスト教系高校入学▼教師と僧侶を比較し、仏教に幻滅▼寺の子故に聖書を勉強	一六才〜一八才(高校) ▼他寺院の柳経随喜▼仏教と天皇・世界大戦に疑問をもつ▼自己と神の関係未解決
	▼人との出会いが大事 ▼現実には幻滅し、非行化する場合もある	▼兄弟の得度▼剃髪を披う弟をみて父とげんかした。	▼兄の思想（共産党）の影響を強くうける▼塔婆の書法で恥をかく▼得度	一九才〜二二才(大学)

表 15

「各種研修会における必要度」

次に掲げる一覧表は、曹洞宗報の昭和四十八年三月号からの転載である。これは同五十年に宗務庁から発行された「各種研修カリキュラム」の作成にあたって、その参考資料とすべく、同四十七年四月、全国六十六宗務所長に、各研修会における必要度をアンケートした結果である。

従って以下の表は、宗門人にとって何が必要なかを現場から明らかにしたものであり、個々の研修のよすがにもなるものであろう。

I 主題必要度一覧表

5 必要度八〇%以上
 4 八〇%未満六〇%まで
 3 六〇%未満四〇%まで
 2 四〇%未満二〇%まで
 □ 二〇%まで

1. 坐 禅		現 職		寺 族	
主 題	研 修 種 別	学 小・中 生	高 校 生	現 職 (副住職)	寺 族
(1)坐 禅の心がまえ	4	5	5	4	4
(2)坐 禅のしかた	5	5	5	3	4
(3)坐 禅の実習	5	5	5	4	4
(4)坐 禅指導の要領	2	5	5	5	5
(5)巡 香のしかた	2	5	5	5	5
(6)在 家向き提唱のあり方	3	5	5	5	5
(7)坐 禅指導の実際	2	5	5	5	5

2. 禅 仏 教																	1. 坐 禅		主 題																	
經 典 講 読																	研 修 種 別		研 修 種 別																	
(28)各 種 偶 文	(27)金 剛 經	(26)遺 教 門 經	(25)甘 露 品	(24)神 力 品	(23)安 樂 品	(22)壽 量 品	(21)觀 音 經	(20)舍 利 子 經	(19)消 災 咒	(18)大 悲 心 經	(17)般 若 心 經	(16)日 課 諸 經 的 概 說	(15)禪 經 祈 禱	(14)禪 念 公 案	(13)禪 公 案	(12)禪 特 質	(11)曹 洞 宗 的 歷 史	(10)曹 洞 宗 和 臨 濟 禪	(9)日 本 的 禪	(8)中 國 的 禪	(7)日 本 的 仏 教	(6)中 國 的 仏 教	(5)イ ン ド 的 仏 教	(4)仏 教 的 歴 史	(3)太 祖 的 伝 記	(2)高 祖 的 伝 記	(1)釈 尊 的 伝 記	(8)坐 禅 指 導 上 の 問 題 点	学 小・中 生	高 校 生	現 職 (副住職)	寺 族	信 徒 部 門	婦 人 社 老 年		
							2	2		3	2					3	4	3	3	3	4	3	3	4	4	4	4	5								
2	2	2			2	2	2	2	2	2	4	4				3	4	3	3	3	4	3	3	4	4	4	5	5	5	5	4					
4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3							
							2	3	2	2	2	4	3		2		5	3	3	2	3	2	2	4	5	5	5	5								
								2			4	2			2		4	2	3	2	3	2	2	4	5	5	5	5								
											3	2				2	3	2	3	2	3	2	2	4	5	5	5	5								

(以下略)

表 16 何を学ぶべきか

- ① 日分行持
- (1) 坐禅
(2) 諷經
(3) 通常の作務—玄閑・応接室・居間・東司・台所の清掃
(4) 献供—献膳・献水／花びんの水替え
(5) 食事
(6) 接客
(7) 法服の点検—補修／クリーニング
(8) 寺務記録
(9) 看經(教学学習)
- ② 週分行持
- (1) 定期の作務—本堂・書院の清掃／法事用物品の整備
(2) 身体の衛生—開浴／浄髪
(3) 山内茶礼
- ③ 月分行持
- (1) 月例行事—祝禱日／月忌／月例集会活動／文書伝道
／揭示伝道／月例研修(地区内学習会)
(2) 月末点検—用具の点検／堂内荘嚴の点検／山内模様替え
(3) 帳簿整理—支払／月間収支報告書／税務帳簿の作成
月間報告会
- ④ 年分行持
- (1) 仏教行持—三仏忌／両祖忌／開山忌／修正会／春秋彼岸会／盂蘭盆会／施餓鬼会／大般若会
(2) 特別行事—増信徒葬儀／各種講習会受講
(3) 事業報告—決算書・予算書／世話人会
(4) 健康診断—年二回以上実施

1. 日常行持

- (1) 法衣
法衣のたたみ方
着物のたたみ方
袈裟のあつかい
絡子のあつかい
手巾のあつかい
絡子・袈裟縫製
- (2) 作務
仏像
須弥壇
東司
仏壇
からぶき
水ぶき
ほうきの使い方
草取り
植木のあつかい
- (3) 供養
霊膳
仏餉
- 献湯
献水
献茶
献華
献灯
献香
献経
供物

(以下略)

そういう意味で、今までのことをおさらいしてみると、一つは、人をふやすことが基本にないといけないことです。どうやってふやすかということは非常に難しい問題ですが、一番いいのが、教師になる弟子を二人以上つくったら、褒賞して昇格させるということです。それは一応評価しているようですが、評価が低いわけです。刺激剤を与えなければいけないと思います。

第二に、親に対して子供の年齢別のハウ・ツーの資料を出すこと。あまりかたく考えないで、楽しいものをつくることです。

一応、私たち曹洞宗の側で提起できることは、こう言ったようなことが考えられるかなということです。

結局、大きな課題は何かというと、さっき言った後追い発心です。小学校低学年のときの後追い発心、中学生のときの後追い発心、どんなところに感動するか。それから、今度は社会人になってから、また戻ってくる後追い発心、いろいろあるわけです。そういうものに我々はどんな刺激策を考えるかということです。そういう意味では、刺激策を中心に考えるほうがよろしいと思います。あまり完璧なテキストをつくるよりも刺激策を考えていくということでしょうね。

それから、肉系相続にもいろいろ問題があったりして、弟子がとれなくなってきたりしています。もちろん弟子になる人も少ない。ところが、ないわけではないわけですから、その辺をどうするか。どう活性化していくかという刺激策を考えることが大事だと思います。そういう意味で、人をふやす刺激策です。

寺の子供が一番多いのだけれども、それゆえにうまくいかない方が多いわけです。寺の子供が中心のために、どうしても在家の人が入ってこれないということがかなりあると思います。その辺をどうするかということも考えないといけないでしょう。

それから、息子が「私は絵描きになりたい」とか「小説家になりたい」と言ったら、親は腹をくくるべきではない

かと、私は思います。人間は自分の人生を生きているのですから。腹をくくるのを早くしなかったら、失敗すると思います。さっき言ったパターンのように、就職しても戻ってくることもあり。人間の縁が熟すというのは、わからないものです。だからといって、縛っておいたら縁が熟すかどうか。やっぱり腹をくくるということも大切です。息子に好きな道を歩ませて、ここは法人なんだからと、跡はほかの人に継がせる。

過疎問題との関係では、婿がいないお寺の和尚さんが死んだとき、妻が僧職をとるケースが禅宗では十年ぐらい前から出てきました。つまり、寺を追い出されてはかなわんというので、奥さんが頭を剃って僧堂へ修行に行っている。もう一つは、檀家や和尚に頭を下げられて、しようがないというので、娘が坊さんになるというケースも最近出てきました。娘は結婚の相手がなくて、四十歳になったというので、コンプレックスを持ちながら坊さんになります。

もう一つは、娘を嫁にやって、夫婦養子を迎えるというケースです。ところが、経済が伴わないから、実際には候補者はいません。嫁にやれないということになってきます。

このように、とにかく我々の意表をつく事態が起こっております。とりあえず思いつくまま申し上げて、問題提起とさせていただきます。ありがとうございます。

※本稿は、平成二年一月十七日に現宗研主催で行った教団研究セミナーにて講演されたものを筆録したものです。